



### 今後の医療は「病気の管理」へ

私は以前、心臓専門の内科医をしていました。心臓の病気といえば、心臓の血管が詰まってしまい激的な胸の痛みをきたす「心筋梗塞」や、全身のむくみや息切れをきたす「心不全」や、胸の動悸をきたす「不整脈」が挙げられます。心臓は全身に血液を送り続けるポンプです。その性質上、急な対応を要する疾患が多く、扱う医療機関は急性期病院が主となります。



**松原 清二** 医師  
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長  
総合内科専門医・循環器内科医  
・日本循環器学会専門医  
・日本内科学会認定医  
・認知症サポート医

先日、金沢で開かれた日本循環器学会総会に参りました。そこでのシンポジウムで、高齢社会のこれからの対応について議論がありました。年齢を重ねれば、人間では、患者さんの生活をできなくなることも残念ながら増えてきます。この「トロール」に気を配って、患者さんの生活を大切にした「病気のコントロール」に気を配って、また内科全般の総論として、また内科専門医として、患者さんが住み慣れた環境で可能な限り治療を続けたいという方向で話が進んでいきました。

この議論は私にとって、は驚きのものでした。というのも、これまでの循環器学会は、患者さんの生存率や再入院を中心に議論していたからです。

「医療はこれまで変わってきているのか」と、現場の変化を肌で感じた瞬間でした。

私自身、治すための「医療」を行いながらも、一方

【まつばらホームクリニック】  
**☎ 042-439-1250**  
 西東京市東町 4-14-18-2F  
(訪問中のため不在が多い)  
 ■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00  
 ■定休日 : 土日 (祝日は診療)  
 ■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック